

平成30年度「特色ある学校づくり対策事業」実践報告  
佐世保市立祇園中学校 所在地 佐世保市祇園町14番12号

校長 松本 正彦

生徒数 1年生126名 2年生128名 3年生104名 総計365名

学級数 全14学級

## 1 目的

- (1) 新しい立地条件を生かした教育の展開を図り、豊かな感性や人間としての在り方生き方などを学ばせる。
- (2) わかる授業の展開や、授業法の改善、朝読書の推進、学習案内を用いた家庭学習との連動など基礎学力の定着を図る。
- (3) 専門家による保健や性についての講演を通して「健康教育」の推進にあたる。
- (4) 各種講演会を実施し、保護者への啓発活動の展開を図りながら家庭教育との連動を図る。
- (5) 開かれた学校を目指し、保護者・地域と連携し、地域の中核としての機能の充実を図る。
- (6) 本物にふれる教育に取り組み、地域人材を活用した「伝統文化学習」を推進する。

## 2 実践内容

### (1) 学力向上の推進・図書館教育の推進

#### ①学びの連続性を目指して

生徒の学力の基礎基本の定着や家庭学習の習慣化を図るために、各家庭に「学習案内」（学習の手引き）を配布し、学習の習慣化を推進した。

また、「Days（生活の記録ノート）」を作成し、日々の記録をとらせ、家庭学習のルーティン化を図った。

特に「Days（生活の記録ノート）」は、毎日の短学活を中心に細かく生徒に記入をさせ、家庭でも活用を促したことから、家庭学習のルーティン化を図ることができた。

Daysを活用して、3年目になるが、本ノートは家庭学習の資料として活用しているほかに、日々の生活の記録を記すことから、生徒と担任の心のふれあいの「場」となっている。

こういった取組は、生徒の学力を定着させると共に、個々の生徒の学習のスタイルの定着に繋がった。



Days(左)・学習案内(右)

#### ②言語活用能力向上・図書館の活用の活性化をめざして

図書利用を活発化させるために、保護者から「図書ボランティア」を募り、環境整備等を含め利用しやすい図書室運営に取り組んだ。本年度は9名の方に図書ボランティアに登録をしていただき、学校司書、図書担当職員との連携を図り、読書活動の推進を行っている。

図書ボランティアには、季節ごとの図書室掲示や装飾に取り組んでいただくと共に、ブックフェスティバルを実施し、図書館教育の充実に努めた。



図書ボランティア 劇・読み聞かせ会

特に本年度は、ボランティアの方の読み聞かせ会や選書会、大学図書館勤務の方を招聘し、生徒向け、保護者向けの講演会、生徒（図書委員会）による朗読会、さらにはボランティアの方の演劇を行った。特に演劇に至っては、生徒の参観も多かった。さらに、授業と学校司書の連携を図り、図書館を活用した授業を実践しながら、多機能に活用する図書館経営の推進に努めた。

### ③言語活動をとおした表現力の向上を目指して

本年度から、生徒の俳句・短歌の作品を新聞社の歌壇等に登校をしたり、作文を登校したりする取組をとおして、言語活動や表現力の向上に取り組んだ。その結果、長崎新聞ジュニア歌壇年間賞や新聞感想コンクール入選、東洋大学「現代学生百人一首」の入選など、生徒の輝く作品が生まれた。

新聞社の俳壇・歌壇のコーナーには、毎回たくさんの生徒の作品が掲載されている。新聞は、校内に張り出し、生徒たちにも紹介をした。

## (2) 豊かな心の育成の推進

### ①あいさつ運動・ペットボトルキャップ収集

本校では、生徒会を中心に「朝のあいさつ運動」「ペットボトルキャップ収集」等の活動に取り組んでいる。挨拶運動では、本年度も生徒からあいさつにかかる標語を募集し、標語を幟旗にして、正門から校舎にかかる坂道に掲げた。

ペットボトルキャップの収集においては、毎月生徒会朝会で集計結果を発表し、熱心に取り組んだ学級の表彰を実施している。収集したキャップは地域の企業に持参し、ポリオワクチンの購入に役立ててもらっている。本年度は1年間で40kgのペットボトルを回収した。



あいさつ標語 幟旗

### ②豊かな心を育む講演会の実施（いのち・人権・平和）

6月の「いのちを見つめる強調月間」の「いのちの講演会」では、長崎県赤十字血液センターから講師をお招きし、いのちの大切さやいのちを救う大切さを体感した。

6. 29 平和集会、8. 9 平和集会では、戦争や原爆・平和に関する発表を行うとともに、長崎原爆記念式典にあわせ黙祷し、長崎県民、日本国民として、過去のこの日をより身近なものとして認識し、二度と戦争や原爆で苦しむことがない平和な世の中をつくる心をはぐくんだ。

12月の人権集会では、生徒一人一人が身近にある人権を守る大切さを再認識し、一人一人の個性を尊重することの大切さを学びとった。

また、人権集会後に、いじめを防止する標語を募集し、投稿したところ、いじめ防止標語コンテストで「全国賞」を受賞する生徒も出て、改めて人権の大切さを学び取った。



人権集会の様子

### ③「いのちを見つめる」一斉道徳授業の公開

6月1日(木)「いのちを見つめる強調月間」の取組の一つとして、「生命の尊重」を題材に、各学年で一斉道徳を行った。現在の生活を見つめ直し、自他のいのちの大切さについて考えを深める学習に取り組んだ。

### ④職場体験学習の充実

本年度は、市内の39事業所に委託し、第2学年で職場体験学習を実施した。体験をとおして、生徒たちの将来を見据えた進路指導に務めることができた。また、学校とは違った環境の中での学習をとおして、人とふれあうこと、コミュニケーションを育むことなど、学びの中に心を育む場面がたくさんあった。



職場体験学習の様子

## (4) 防犯教育の推進

### ①情報モラル学習会

7月9日(月)、県メディア安全指導員を講師に招き、講話をいただいた。中高生が陥りやすいスマートフォンや携帯電話等の危険性を十分に把握し、利便性を生かした活用を学ぶことのできた講演会となった。

### ②性教育講演会

助産師職能委員会から、講師をお招きし、性教育講演会を開催した。ふさわしい男女の関係のあり方等を学んだ。

### ③薬物乱用防止教室

1月29日(火)、佐世保警察署少年課スクールサポーターを講師としてお招きし、講演会を行った。講演会をとおして、薬物の恐ろしさや危険性を再認識するとともに、自分自身の体や命を守ることを体感することのできる機会となった。



薬物乱用防止教室の様子

## (5) 地域交流

中部地区公民館祭りには、各学年から教科作品を出品した。また、本校の吹奏楽部がステージでの発表を行うなど、地域との交流を深めた。

## (6) 本物を学ぶ「伝統文化体験学習」

1月11日(金)・25日(金)、2年生を対象に伝統文化体験学習を実施した。日本の伝統文化に造詣が深い、地域の方を講師に招き、基本を学ぶとともに礼儀や作法等の体験もした。本年度は6コース(茶道・華道・書道・箏曲・俳句・弓道)を開設し、日本の伝統文化の優雅さや奥深さを再発見する貴重な時間となった。



華道 生徒作品

生徒たちは講師の話真剣に聞きながら、日本文化のについて、一つでも学びとろうとしていた。



伝統文化体験学習・学習活動の様子

### 3 成果と課題

学力の向上では、「学習のてびき」を作成し、生徒に配布した。特に、1年生には中学校の学習の仕方の参考として活用させ、基礎基本の定着と家庭学習の習慣化を図った。「Days」は、毎日の細かく生徒に記入をさせ、家庭でも活用させたことから、家庭学習のルーティン化を図ることができた。

また、図書ボランティアの「ブックフェスティバル」などにより、生徒を読書にいざなう活動の推進を行うことができた。「ブックフェスティバル」は、どの学年の生徒も楽しみにしている。

さらに、本年度は、俳壇・歌壇への投稿等を積極的に行い、生徒たちの言語活動や表現力の向上に努めた。第32回東洋大学「現代学生百人一首」に入選をするなど、その力は高まっている。

「6.29平和集会」「8.9平和集会」「人権集会」で、生徒たちは、改めて戦争の凄まじさや悲惨さ、人権を尊重することの大切さを知った。いのちの講話や道徳の授業、職場体験学習等をとおして、いのちの重みや生きることの大切さ、生活の中での生き甲斐、やりがいを体感させることで、豊かな心を育むことができた。

毎朝の挨拶運動をとおして、愛校心をはぐくむとともに、「ペットボトルキャップ収集」等のボランティアの取組をとおして、奉仕的な精神を培った。特に本年度は、挨拶運動の幟旗を作成し、全校生徒であいさつの活性化を図る取組を行った。「あいさつの大切さ」は浸透している。

「情報モラル学習会」等の講習会を開催し、身近に潜む危険性をしっかりと把握させることによって、危険から身を守る術を学ばせ、安全・安心に過ごす主体的な力を育む一助となった。

伝統文化に精通した地域の方々を講師に招き、伝統文化教室（弓道・茶道・書道・華道・箏曲・俳句）を開設することによって、基本的な礼儀や作法に触れ、改めて日本の伝統文化の良さを発見し、日本人の心を学ぶことができた。初めて体験することも多買ったが、生徒たちは講師の指導を熱心に聞き、「本物」とふれあうことで日本の文化を十分に学ぶ契機となった。生徒が伝統文化に真剣に向かい合う姿勢に、各講師の先生方からは、お褒めの言葉をいただいた。

本年度も、学校教育目標の具現化を図るために、地域の人材を活用しながら、特色ある学校づくりを推進してきた。

今後、生徒たちの学力を高めるために、「学習のてびき」の活用や「Days（生活の記録ノート）」の中身の精選等を行い、生徒の学習のルーティン化をさらに進めていきながら、学力の定着にさらにつながっていくことが今後の課題である。

これからも、さらに生徒一人一人が本校の生徒であるという自覚（GION PRIDE）を持ち、さらに学力や生徒自身の心を豊かにし、誇り（GION BRAND）を持って社会を生き抜く力を身につけさせるためにも、確かな学力と豊かな心を育みながら、地域に根ざした学校づくりに邁進する所存である。